

7 - 6 北陸・近畿・山陰における地殻変動連続観測（1996年5月1日～10月31日） Continuous Observations of Crustal Deformation in Hokuriku, Kinki and San-in Districts (May 1-October 31, 1996)

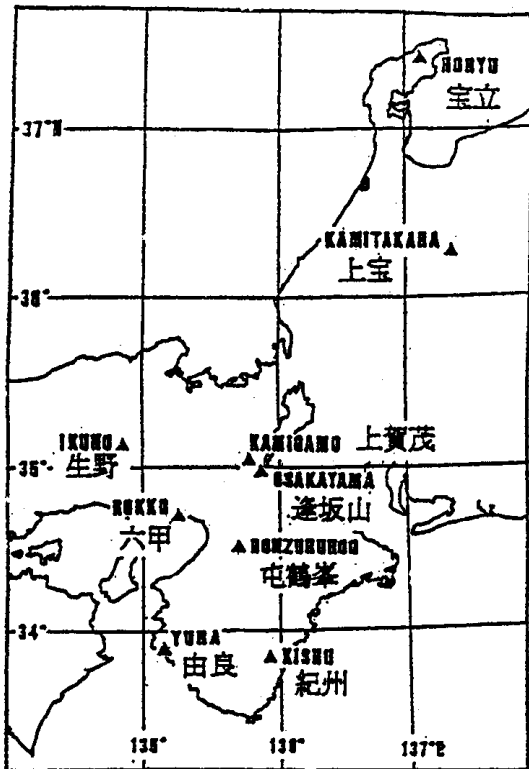
京都大学防災研究所

Disaster Prevention Research Institute Kyoto University

北陸近畿および近畿山陰両観測線の上宝，宝立，逢坂山，上賀茂，屯鶴峯，由良，生野，六甲鶴甲および紀州の9観測点で観測された地殻ひずみおよび傾斜について報告する。観測点の位置は第1図に示す通りである。

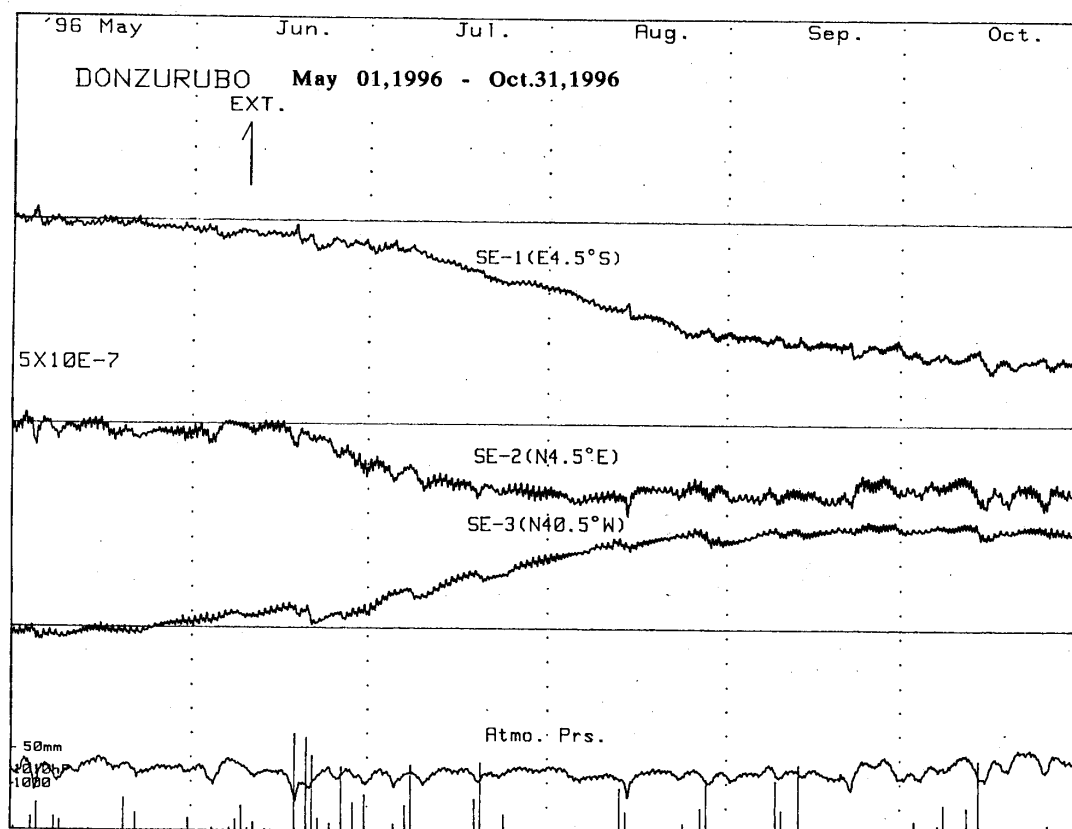
上宝のひずみ変化（第3図）は，30mのひずみ計の端点（E1，2，3）および中間点（EC1，2，3）での記録であり，ひずみが一樣であればそれぞれ一致するべきものである。EC1では6月から8月にかけてE1にくらべのびの傾向が大きく，またEC3はE3にくらべ変化量が大いだが，いずれも従来よりこれらの成分に見られる特徴である。

宝立（第4図）のひずみ計E2は8月以降不調であり，生野のひずみ計N17°E成分は7月後半以降欠測である。紀州における水管傾斜計はこの期間故障が多く，このため本報告からは省いた。同じ紀州のひずみ計N132°E成分にみられる10月の変化の加速的な傾向については，他の成分が降雨による変化として解釈できるのに対して，異常な傾向である。12月12日現在でもこの加速傾向は続いており，器械的な原因である可能性が高い。N80°E成分では現在のところこれに対応するような変化は見られない。



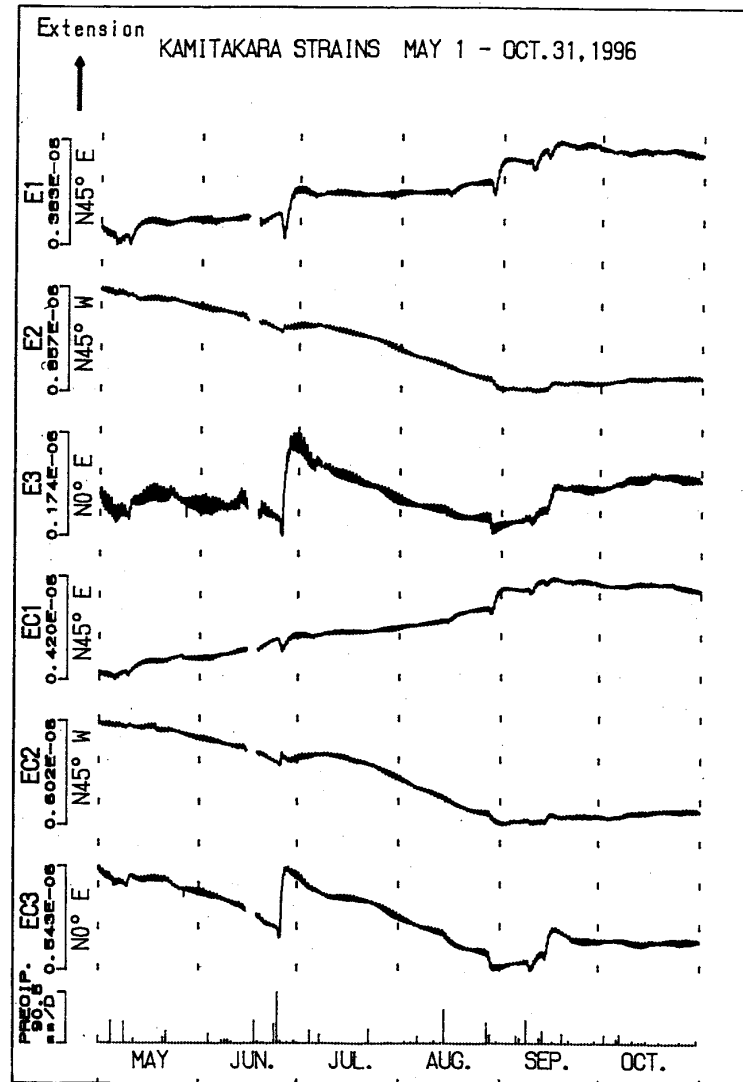
第1図 地殻活動総合観測線の観測点位置図
Fig. 1 Observation stations consisting of the monitoring chains.

屯鶴峯におけるひずみ変化

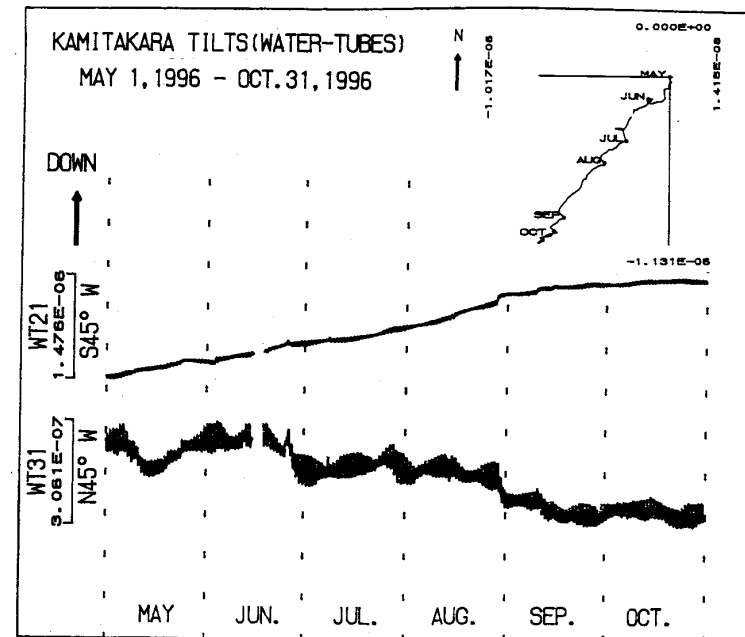


第2図 屯鶴峯におけるひずみ変化
Fig. 2 Strain change at Donzurubo.

上宝におけるひずみ変化



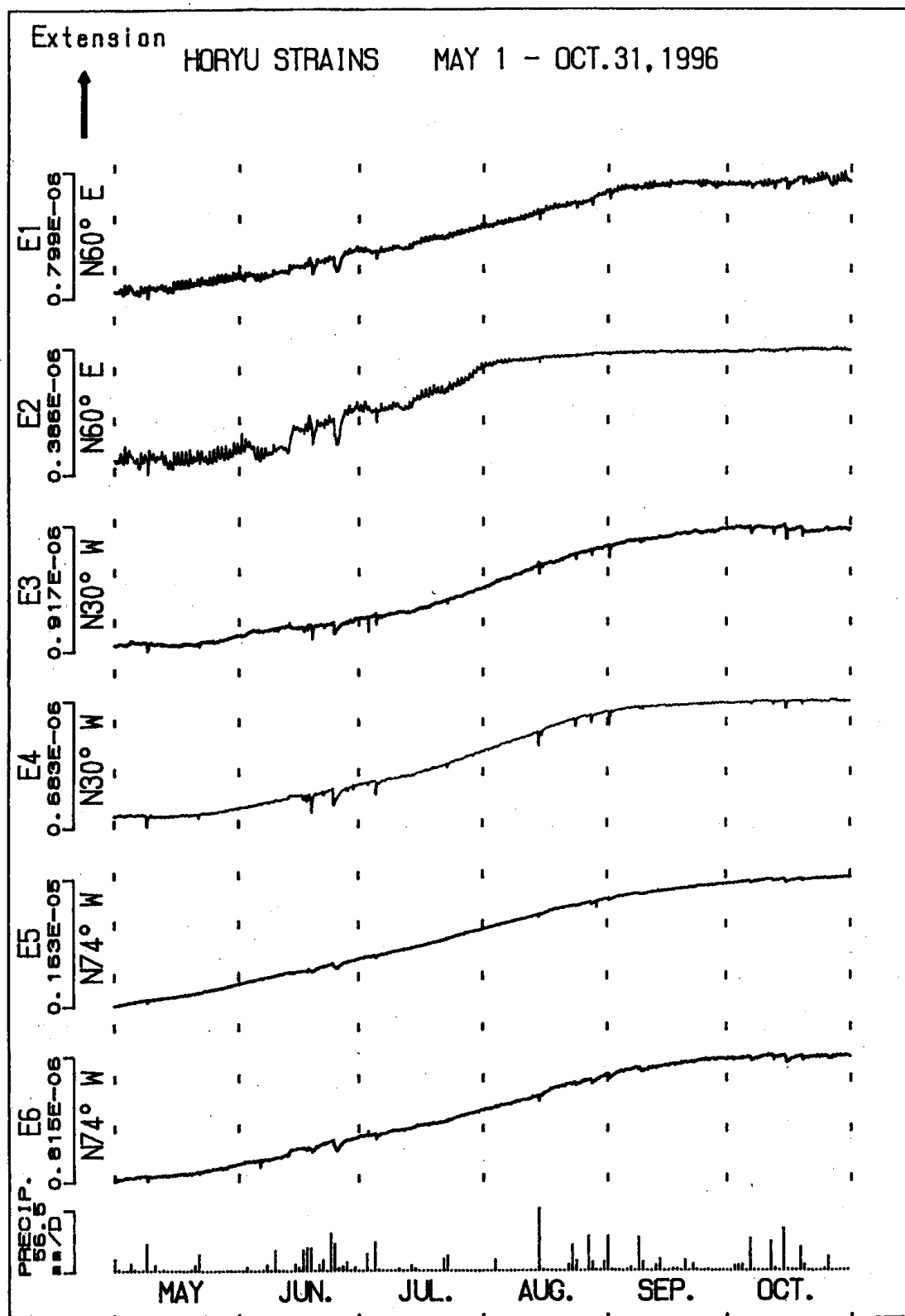
上宝における傾斜変化



第3図 上宝における傾斜およびひずみ変化

Fig. 3 Tilt and strain changes at Kamitakara.

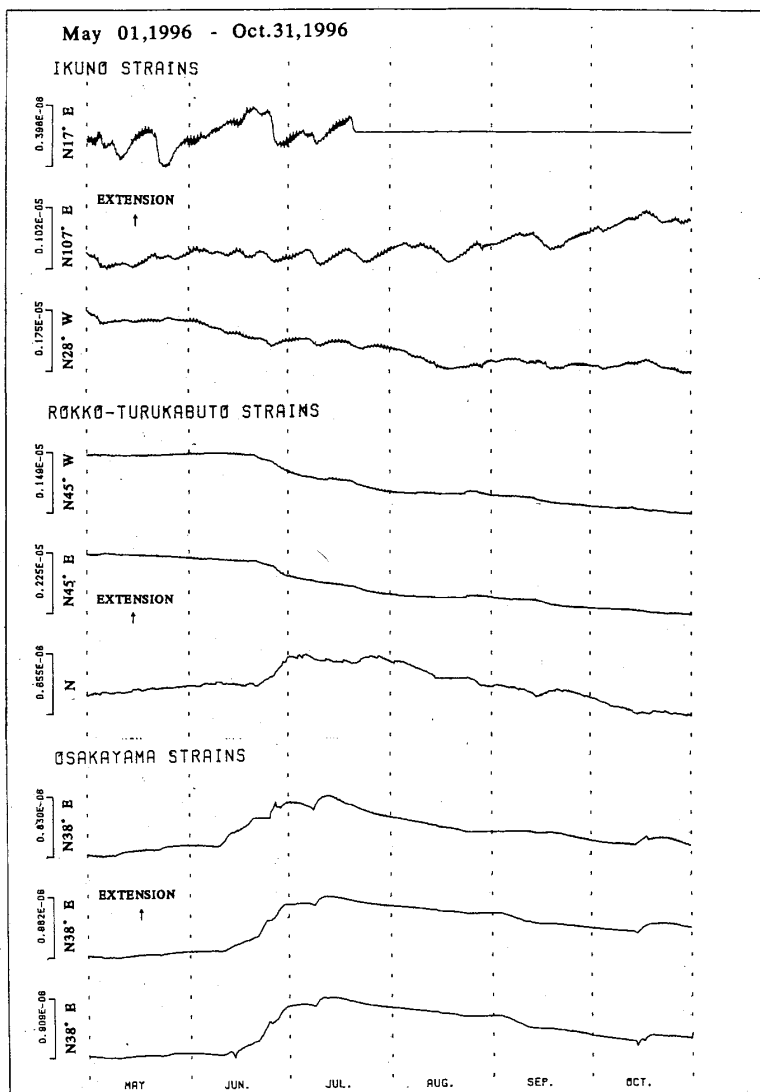
宝立におけるひずみ変化



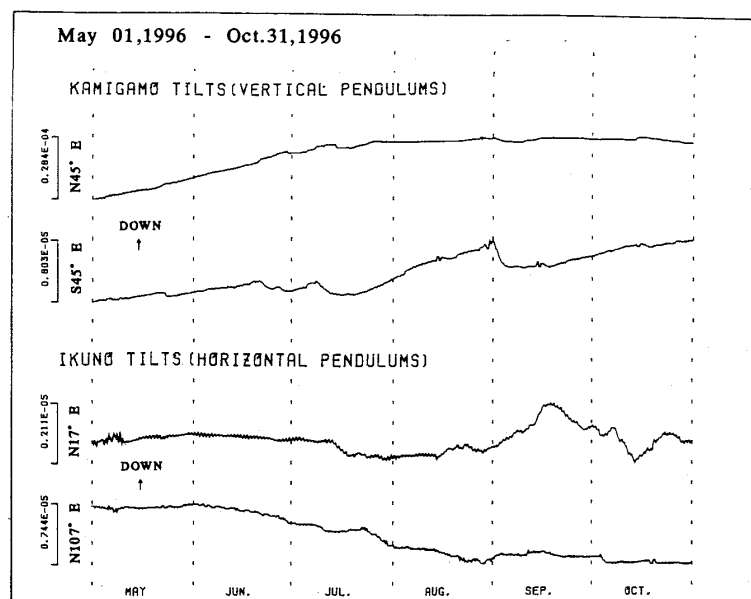
第4図 宝立におけるひずみ変化

Fig. 4 Strain change at Horyu.

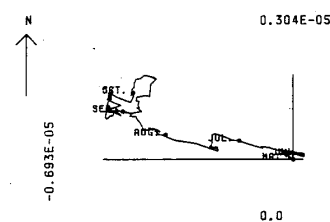
生野・六甲鶴甲・逢坂山におけるひずみ変化



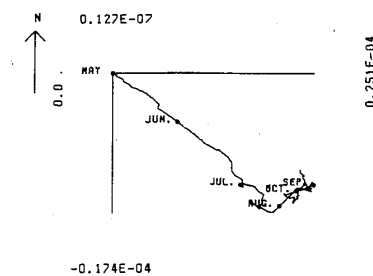
生野・上賀茂における傾斜変化



IKUNO TILT
(HORIZONTAL PENDULUMS)
MAY 01, 1996 - OCT. 31, 1996



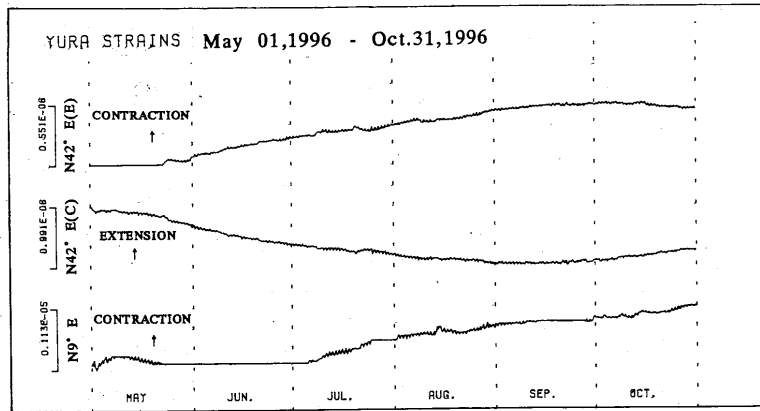
KAMIGAMO TILT
(VERTICAL PENDULUMS)
MAY 01, 1996 - OCT. 31, 1996



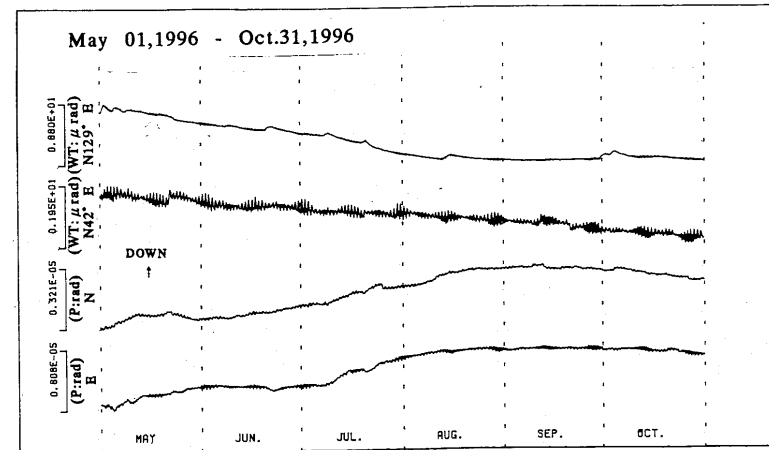
第5図 生野，六甲鶴甲，逢坂山，上賀茂におけるひずみおよび傾斜変化

Fig. 5 Strain and tilt changes at Ikuno, Rokko - tsurukabuto, Osakayama and Kamigamo.

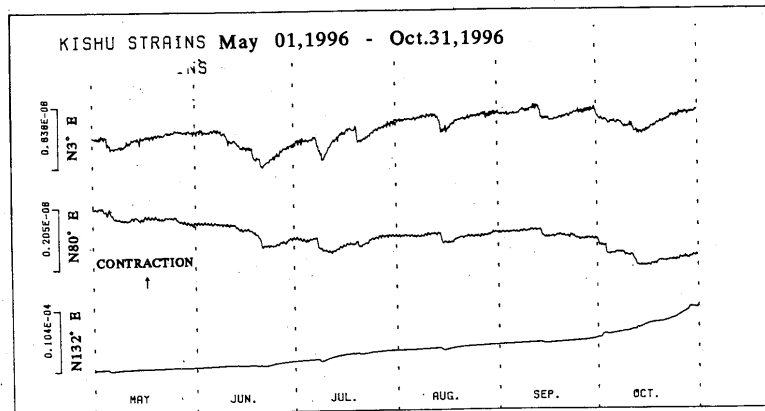
由良におけるひずみ変化



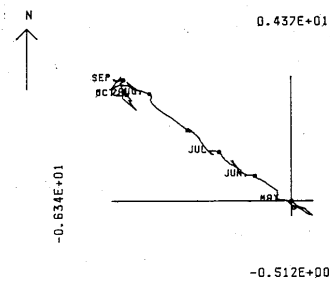
由良における傾斜変化



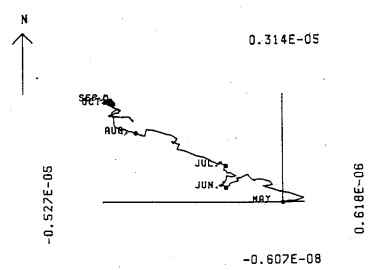
紀州におけるひずみ変化



YURA TILT(WATER-TUBES)
MAY 01,1996 - OCT.31,1996



YURA TILT(PENDULUMS)
MAY 01,1996 - OCT.31,1996



第6図 由良，紀州におけるひずみおよび傾斜変化

Fig. 6 Strain and tilt changes at Yura and Kishu.